

# 米川 安寿さんの自己紹介 1.

## 1. 学業内容

2013 年:同志社大学大学院 グローバルスタディーズ研究科博士後期課程

2014 年:株式会社ハニールネッサンス設立～現在

「環境問題」に関心の根底を持ちながらも、表面的には「国際開発学」を学んできました。'途上国はなぜ貧しいと言われるのか?'国際開発政策は果たして途上国を'豊か'にするのか?'などを視点として、貿易統計研究を行いながら、マクロ開発政策を考えてきました。その結果、途上国の人による、途上国のための行動という「内発的発展論」を現在主軸として研究しています。また、消費と経済のパラダイム転換に強い関心を持っています。21世紀を希望をもって生きるため消費パラダイム転換、お金の概念の転換を見据えています。

修士課程の時に「はちみつ」に出会い、修士課程在学中、大学院のアントレプレナーシップに強い影響を受けてハチミツ生産販売と途上国農村の自然保全とをつなげる「ハニールネッサンス」起業に至りました。

## 2. 入会の動機と当会でやりたい事

オシャレな未来を前提として、「ハチミツを楽しむことが、世界中の花と緑を守る契機を作る」という希望のあるメッセージを届ける事。ミツバチについて伝える事。

お金のパラダイム転換について伝える事(可能であれば)。

## 3. (株)ハニールネッサンスの紹介(強みと弱み)

キャッチコピー:「ハチミツによる花と緑の再生」

目的:1)途上国産の美味しいハチミツを届け、「美味しいハチミツを楽しむことが、世界中の花と緑を守る契機を作る」というメッセージを届ける事。

2)ハチミツ生産販売を通じて、現地の人と共に生態系のバランスある花と緑の維持再生を実践して行くこと。

<強み>消費者に意図が伝わればハチミツ需要を喚起できる可能性が高い。イノベーション的要素を含んでいます。

<弱み>

その1) 需要の問題

国産(日本)はちみつに大きな需要があり、海外産への需要が縮小気味です。ハニールネッサンスの趣旨が伝わらないと、途上国産はちみつを買う合理的な理由がなく、需要が生み出せないことが課題です。

その2)三段論法の問題

はちみつは花と緑がないと生み出せない。すなわち養蜂産業は花と緑を保全する産業。ハチミツを楽しむ人が増えると、生産者への支援になり、花と緑の保全につながる。という一見当たり前なのに実は知られざるメカニズムは三段論法になるため大変伝わりづらい点が課題です。